

九頭竜川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～ダム整備が進んでいる流域だからこそ、洪水調節施設を最大限に活用した即効性のある流域治水対策～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、九頭竜川水系においても、幸福度※日本一の福井を洪水から守るため、近畿で2番目にダムが多い流域だからこそ洪水調節施設を最大限に活用した即効性のある事前防災対策を進める必要があります。国管理区間においては、戦後最大規模の洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。（※全47都道府県幸福度ランキングにおいて4年連続総合1位）

位置図



凡例

- 河道掘削（河道幅幅を含む）
- 堤防拡築・築堤
- 堤防強化（浸透）
- - 捷水路・地下放水路
- 遊水地
- ダム
- 浸水範囲（整備計画規模洪水）
- ✕ S23年7月梅雨前線 堤防決壊箇所（国）
- ✕ S28年13号台風 堤防決壊箇所（国）
- ✕ H16年福井豪雨 堤防決壊箇所（県）
- ⇄ 大臣管理区間



●グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、築堤、堤防強化、堤防拡築、粘り強い堤防、捷水路、地下放水路、橋門改修、橋梁架替、足羽川ダム建設、吉野瀬川ダム建設、ダム再生、既設ダムの有効活用、河道内樹木伐採、遊水地
- ・下水道等の排水施設、雨水貯留浸透施設の整備
- ・利水ダム等15ダムにおける事前放流等の体制構築、実施（関係者：国、福井県、福井市、勝山市、永平寺町、北陸電力(株)、電源開発(株)等）
- ・砂防堰堤等の整備、治山ダム等の整備
- ・田んぼダム・森林整備・治水効果の検証
- ・調節池・校庭貯留・公園貯留等

■被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画による水害リスクの低い地域への居住誘導等の検討
- ・土地利用規制・誘導（災害危険区域等）の検討
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

- 森林整備 既存15ダムの事前放流
- 既設ダムの有効活用
- 治山ダム整備 治水効果の検証
- 河道内樹木伐採 田んぼダム



■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・関係者の役割分担をより明確にしたタイムラインの改良
- ・ダム下流河川の避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成
- ・水害リスク空白域の解消
- ・ハザードマップの更新・周知と説明（想定最大規模の降雨を対象）
- ・市町を超えた広域避難計画の検討
- ・災害時における逃げ遅れをなくすため、避難行動要支援者の避難計画の検討
- ・防災啓発活動を推進させるため、域内全教育委員会へ積極的に働きかける
- ・小中学校等と連携した防災に関する出前講座の取組み
- ・高齢者の避難行動の理解促進のための地域包括支援センター・ケアマネジャーとの連携
- ・水位計、量水標、カメラ設置、活用
- ・重要水防箇所の情報共有と関係市町による共同点検の実施
- ・洪水時のダムの貯水池の状況を伝えるための手段の充実
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成および避難訓練実施の促進支援
- ・水位周知河川等の見直し・氾濫危険水位等の基準水位の見直し
- ・庁舎受電設備、非常用発電設備等の浸水対策
- ・水防資材の配備等

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための各種対策
- 土地利用規制等の検討
- 立地適正化計画による水害リスクの低い地域への居住誘導等の検討



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

九頭竜川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～ダム整備が進んでいる流域だからこそ、洪水調節施設を最大限に活用した即効性のある流域治水対策～

●グリーンインフラの取り組み 『コウノトリ、オオヒシクイなど多様な生物を育む九頭竜川の豊かな河川環境の再生』

- 九頭竜川の下流域はヨシ・マコモ群落等の抽水植物が水際に分布し、オオヒシクイ等の休息・採餌地となっている。中流域はアラレガコの生息地として国の天然記念物の地域指定を受けており、砂礫河原や瀬、淵が連続している。砂礫河原はコアジサシやカワラハハコ等の砂礫地固有の動植物の生息・生育場となっている。
- 多様な生物を育む九頭竜川水系の豊かな河川環境を回復するため、今後概ね10年間で日野川の湿地創出など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



水鳥等の採餌場・休憩地等の生息環境再生
水際環境保全・再生

オオヒシクイなどの採餌場、休憩地等の生息環境再生

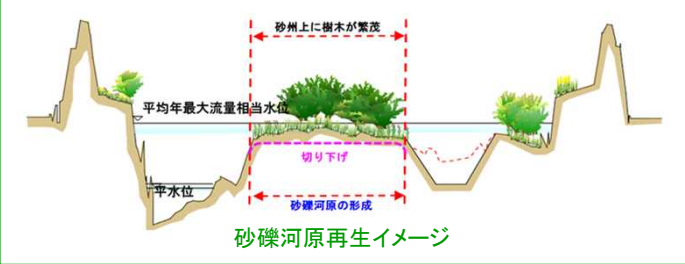
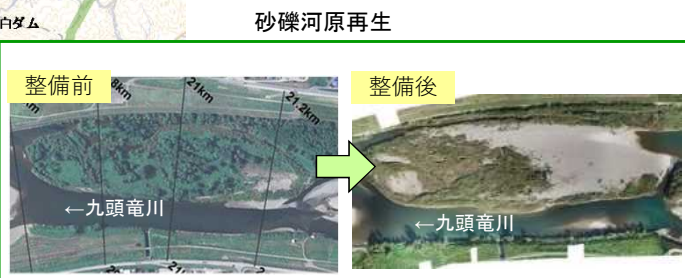
水際環境保全・再生



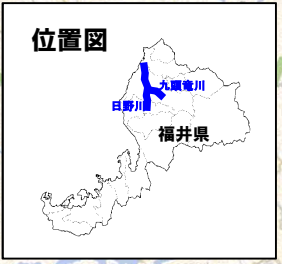
湿地創出によるコウノトリなどの生物の多様な生育環境の保全



- **自然環境の保全・復元などの自然再生**
砂礫河原再生、水際環境保全・再生
- **生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成**
コウノトリ、オオヒシクイなどの採餌場・休憩地等の生息環境再生
- **治水対策における多自然川づくり**
湿地創出によるコウノトリなどの生物の多様な生育環境の保全
- **自然環境が有する多様な機能活用の取組み**
 - ・ 小学校などにおける河川環境学習
 - ・ 福井県流域環境ネットワーク協議会による自然再生の推進
 - ・ 堤防草刈りで生じた草を堆肥化して無償配布



砂礫河原再生イメージ



- 凡例
- 県境
 - 流域界
 - ▽ 大臣管理区間
 - ▲ 既設ダム(直轄)
 - 治水メニュー
 - グリーンインフラメニュー

【全域に係る取組】
・ 地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。1

九頭竜川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

(2022年6月一部改訂)

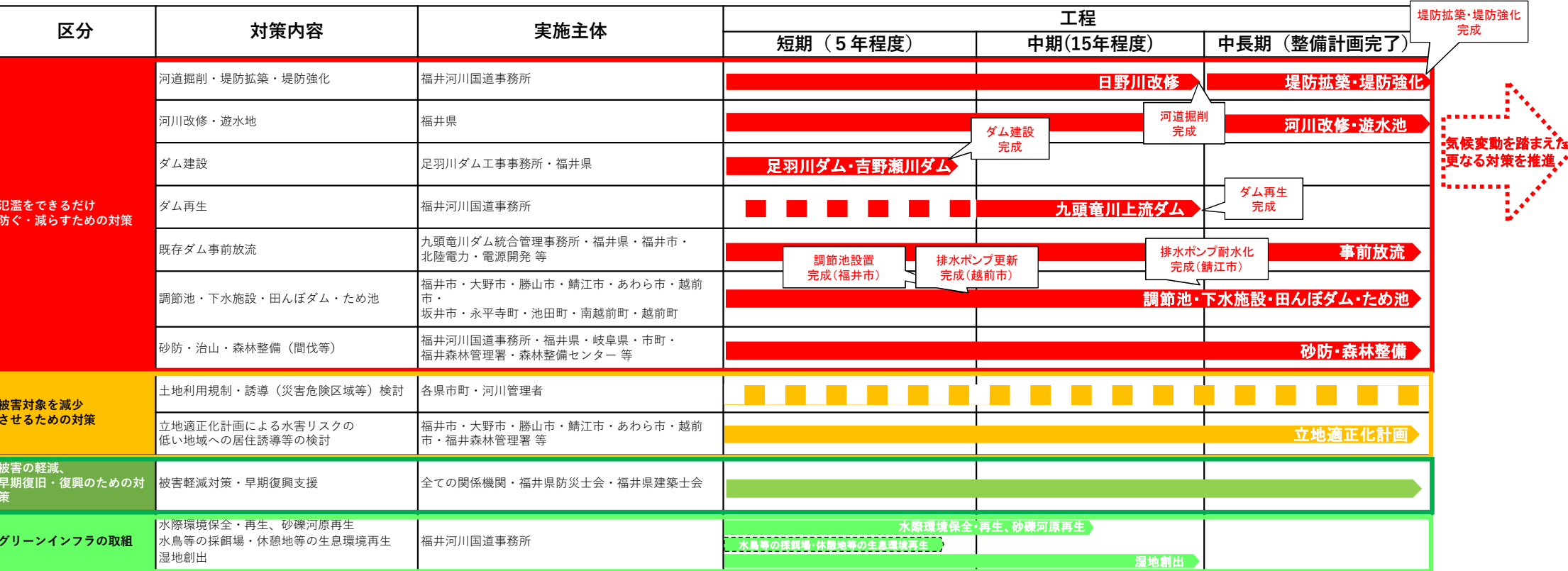
～ダム整備が進んでいる流域だからこそ、洪水調節施設を最大限に活用した即効性のある流域治水対策～

● 九頭竜川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。あわせて、県庁所在地である福井市を含めた広大な氾濫原を有する特徴を踏まえ、安全なまちづくり（立地適正化計画に基づく防災指針の検討等）や内水被害軽減対策（雨水排水施設整備等）、調節池・田んぼダム等の流域対策、地区タイムラインの活用等のソフト対策を実施。SDGsに位置付けた持続可能な流域治水により、福井県の幸福度日本一の担保に寄与。

【短期】 「足羽川ダム建設」・「吉野瀬川ダム建設」と「日野川改修」により、日野川筋の浸水リスクを低減。

【中期】 既存ストックの活用で早急に洪水調節機能を向上させる「九頭竜川上流ダム再生」により、本川筋の浸水リスクを低減。

【中長期】 九頭竜川全域で必要な「堤防拡築」を完成させ流域全体の治水安全度向上を図る。



気候変動を踏まえた更なる対策を推進

【事業費（R2年度以降の残事業費）】

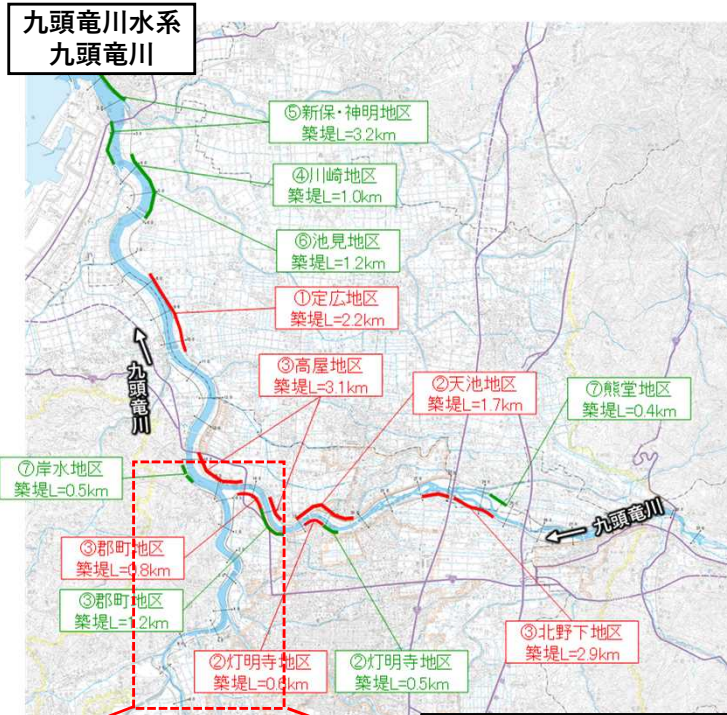
- 河川対策
全体事業費 約2,484億円 ※1
対策内容 河道掘削、堤防拡築、堤防強化、遊水地 等
 - 砂防対策
全体事業費 約24億円 ※2
対策内容 砂防堰堤の整備、治山ダム等の整備 等
 - 下水道対策
全体事業費 約318億円 ※3
対策内容 排水施設の更新、雨水貯留施設の設置 等
- ※1：直轄及び各圏域の河川整備計画の残事業費を記載
 ※2：直轄砂防事業の残事業費を記載
 ※3：各市町における下水道事業計画の残事業費を記載

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

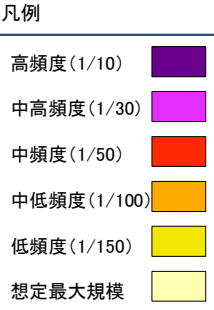
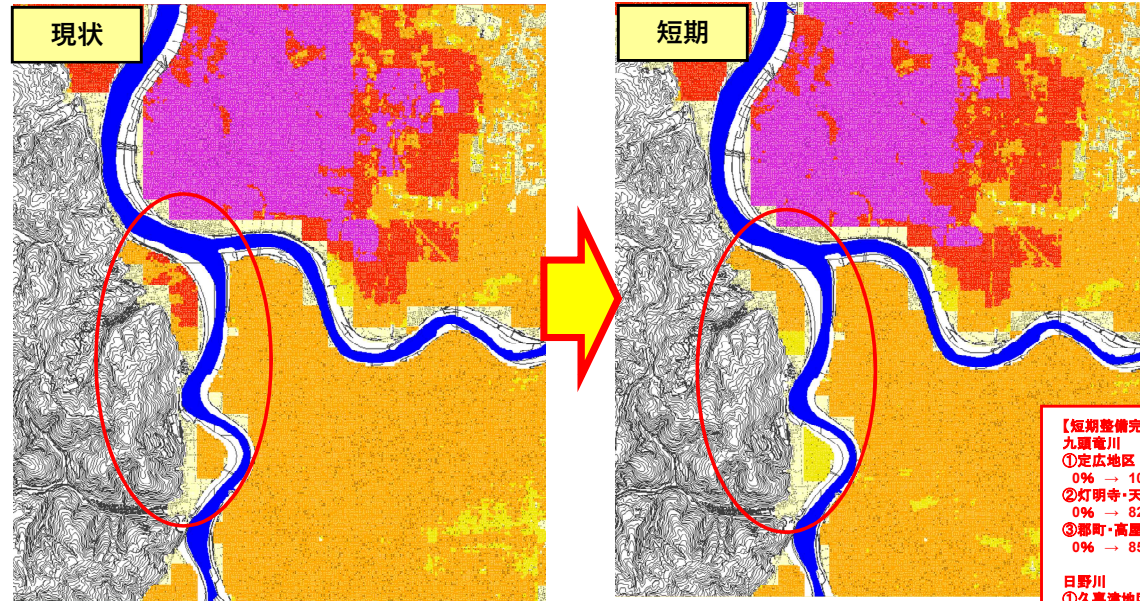
九頭竜川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～ダム整備が進んでいる流域だからこそ、洪水調節施設を最大限に活用した即効性のある流域治水対策～

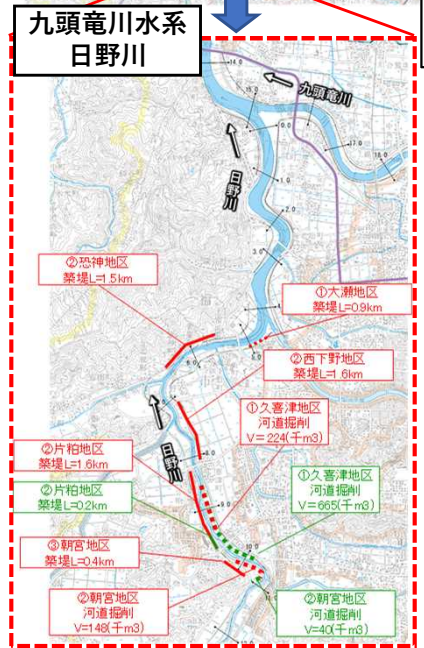
短期整備（5カ年加速化対策）効果：河川整備率 約46%→約55%



日野川朝宮地区の河道掘削により、福井市街地における治水安全度を向上。
R8の足羽川ダム(1期)の完成により、九頭竜川流域の治水安全度を向上。



- 【短期整備完了時の進捗】**
- 九頭竜川**
- ①定広地区 堤防拡築 0% → 100%
 - ②灯明寺・天池地区 堤防拡築 0% → 82%
 - ③郡町・高屋、北野下地区 堤防拡築 0% → 85%
- 日野川**
- ①久喜津地区 河道掘削 0% → 25%
 - ②朝宮地区 河道掘削 0% → 78%
 - ③大瀬地区 堤防拡築 0% → 100%
 - ④恐神・西下野・片粕地区 堤防拡築 0% → 96%
 - ⑤朝宮地区 堤防拡築 0% → 100%



5カ年加速化メニュー：赤字
整備計画残メニュー：緑字

※この図は、河川の長期計画（河川整備基本方針）で計画対象としている1/150確率年の降雨及びその降雨を1/10、1/30、1/50、1/100、1/150の確率年とした場合に想定される浸水範囲であり、河川整備計画で目標とする降雨により想定される浸水範囲と一致しない場合がある。
※国直轄区間からの外水氾濫のみを想定したものであり、足羽川等支川の氾濫は考慮していない。また、浸水範囲の軽減効果は、国の整備効果のみを反映している。
また、短期の図は足羽川ダムの洪水調節を含んだ浸水範囲である。

九頭竜川水系 九頭竜川

区分	対策内容	区間	工程	
			短期(R2~R7年)	中長期(R8~R18年)
関連事業			R3	▼足羽川ダムⅠ期完了
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防拡築	①定広地区	100%	100%
		②灯明寺・天池地区	82%	100%
		③郡町・高屋、北野下地区	85%	100%
		④川崎地区		100%
		⑤神明・新保地区		100%
		⑥池見地区		100%
		⑦岸水・熊堂地区		100%

九頭竜川水系 日野川

区分	対策内容	区間	工程	
			短期(R2~R7年)	中期(R8~R18年)
関連事業			R3	▼足羽川ダムⅠ期完了
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防拡築	①久喜津地区	25%	100%
		②朝宮地区	78%	100%
		①大瀬地区	100%	100%
		②恐神・西下野・片粕地区	96%	100%
		③朝宮地区		100%

※スケジュールは今後の予算状況や事業進捗によって変更となる場合がある。

九頭竜川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～ダム整備が進んでいる流域だからこそ、洪水調節施設を最大限に活用した即効性のある流域治水対策～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：55%
(概ね5か年後)

農地・農業用施設の活用



4市町

(令和3年度末時点)

流出抑制対策の実施



15施設

(令和2年度実施分)

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 25箇所
(令和3年度実施分)

砂防関係施設の
整備数 1施設
(令和3年度完成分)

立地適正化計画における
防災指針の作成



0市町

(令和3年12月末時点)

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 13河川
(令和3年12月末時点)

内水浸水想定
区域 0団体
(令和3年11月末時点)

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 811施設
土砂 171施設
(令和3年9月末時点)

個別避難計画 9市町村
(令和4年1月1日時点)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

洪水を河川内で安全に流すため、引き続き河道掘削や堤防整備を実施

- 九頭竜川水系における流域治水の一環として、堤防拡築、河道掘削等を実施し、早期に安全性の向上を図る。



河道拡幅（九頭竜川水系竹田川）

現状写真(河道拡幅前)

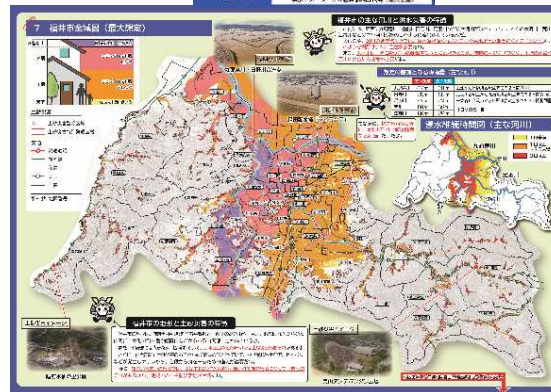


河道掘削（九頭竜川水系日野川）

被害対象を減少させるための対策

洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保

- 想定最大規模降雨における洪水ハザードマップを順次作成し、洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図る。



洪水・土砂災害ハザードマップ改訂

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

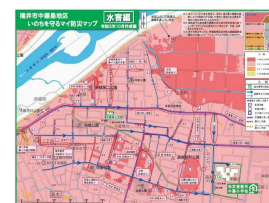
マイ・タイムライン、マイ防災マップ作成支援

- マイ・タイムライン、マイ防災マップの作成支援を実施することで地域防災力の向上を図る。

小学校への出前講座



ワークショップの開催



マイ防災マップの作成



マイ・タイムラインの作成

※指標の数値は集計中のため変更の可能性があります。